

## 平成 22 年度 地域移行促進部会報告

## 1. 22 年度地域移行促進部会の取り組み経過

「入所施設、病院からの地域移行にあたり、安心して安定した生活ができる地域の基盤整備を推進していく」ことを目標として、21 年度に引き続き、「障害者の地域医療」の課題に取り組んだ。

「障害のある方の地域医療に関するアンケート」意見交換会

前年度実施した「障害のある方の地域医療に関するアンケート」結果報告と、安心して暮らすための地域医療の課題と対策について、知的障害・精神障害に分かれて、意見交換を行った。

ノート作成プロジェクト

「障害を持つ方の健康管理」「医師・支援者に自分の健康情報を知ってもらう」ことを目標に「私の健康ノート」を作成。活用を評価するために、知的、精神当事者（各 15 名）に協力してもらい試行、聞き取りを行った。

## &lt; 地域移行促進部会の経過 &gt;

	実施日	内容	参加数	場所
第 1 回	6/10	・地域医療アンケート意見交換の持ち方 ・私の健康ノート作成の進捗状況について	18 人	オブリガード 作業室
第 2 回	11/11	・地域医療の意見交換会報告と今後の進め方 ・「わたしの健康ノート」の試行について	15 人	区役所 3 階 第 2 会議室
第 3 回	2/16	・「わたしの健康ノート」の試行報告 ・地域移行の現状と課題 (杉並区退院促進事業・すだちの里地域移行から)	12 人	杉並保健所 地下講堂

## &lt; 「障害のある方の地域医療に関するアンケート」意見交換会の経過 &gt;

	実施日	内容	参加数	場所
知的障害	9/9	・地域医療に関するアンケート報告と課題 ・地域医療に関する事例報告 ・2 班に分かれてグループ討議、討議発表	34 人	杉並保健所 地下講堂
精神障害	10/12	・地域医療に関するアンケート報告と課題 ・2 班に分かれてグループ討議、討議発表	28 人	杉並保健所 地下講堂

## &lt; ノート作成プロジェクトチームの経過 &gt;

	実施日	内容	参加数	場所
第 1 回	5/27	・〇〇ノートについて(内容、配付先など) ・作成からモニタリングまでのスケジュール	9 人	オブリガード
第 2 回	6/4	・ノートのモデル、評価方法、使い方等の検討	9 人	オブリガード
第 3 回	7/13	・ノートの配布方法、説明文等の検討 ・聞き取りのアンケート案について	9 人	オブリガード
第 4 回	10/6	・今後の評価の進め方について ・聞き取り内容および分担について	9 人	オブリガード

## 2. 障害がある方への地域医療についての提言（次期部会への課題として）

- ・地域の医療機関とこれまでの情報を共有し、障害がある方の診察に必要な対応や、家族・支援者への要望を聞く機会を検討する。(ex 懇談会、アンケート、健康ノートの継続検討)
- ・地域の医療機関に障害保健福祉サービスの活用について有効な情報提供を行う。
- ・精神障害を持つ当事者や支援者の交流の場や活動のバックアップを検討する。
- ・医療機関と地域の支援者間のネットワークの仕組みづくりを検討する。

## 3. 地域移行の現状と課題について

## (1) 退院促進事業

## 長期入院患者の掘り起こし

区単独事業であり、患者に一番近い病棟スタッフの理解が得にくい状況のなか、掘り起こしをどうしていくか。

## &lt; 提案 &gt;

地域の関係機関の協力の元、病院に退院促進事業を周知する派遣チームを作る。

(マンパワーの問題と退院後の地域生活がイメージしやすくなるというメリット)

長期入院患者は地域移行の際に外泊訓練などが有効。地域移行に際して中間施設の整備が必要。

(精神障害者のショートステイ対応が不足)

地域定着のための支援が少ない実態がある。今後定着支援のために関係機関の連携と継続支援システムの構築が必要である。

退院促進 地域定着 地域支援という一連の流れの中で、介護保険のようにケアマネージャーが支援の調整を行う仕組みではない。個別のマネジメントを決めることによるメリットも大きい。ゆるやかな枠組みの中での支援もメリットが大きい。この場合、個別支援会議のあり方が重要であり、また運営をどのようにするか等が課題である。

## &lt; 提案 &gt;

・個別支援会議の中で情報を共有し、その状況に応じた役割分担を明確にしていく。

・地域の中の見守り体制強化という部分で、地域定着支援員(仮称)を育成し、活用するなど。

## (2) すだちの里地域移行

平成 21 年度までの移行者 14 名のうち、障害程度区分 4 以上の方は 9 名であった。重度の人は、特に生活様式はさまざま。特にケアホームが不足している。新規に開設させるだけでなく、支援員の体制も合わせて充実させる必要がある

**グループホームの開設数によって、地域移行者数が決まっており、開設促進が必要。**

- ・区分 5 以上の方が入居できるケアホームの新規開設と支援できるケアホームの職員の支援体制。
- ・医療ケアの**必要性が増える**区分 5 以上の方に対応できる医療職の派遣あるいは配置が必要。
- ・グループホーム利用に向けた体験の場の拡充や、一人暮らし体験ができる場の検討。

**重度知的障害者の個別性に対応できる支援方法の具体化が望まれている。**

- ・区分の高い方の日中通所の場合・生活介護の事業所の増と送迎の必要性。
- ・重度障害者等包括支援を活用し連続した支援や、日中活動プログラムを日替わりあるいは、半日ずつ利用できるなど柔軟な支援の必要性。
- ・余暇支援で、重度者サービスが担える居宅や移動支援のサービス事業所の増加が求められている。
- ・地域生活を継続するためのサポート体制について、**現行「24 時間安心サポート事業」を充実した体制**が必要。
- ・重度障害者等支援の難しい方へのサービス提供の方策を具体化するための検討を行う。

## (3) 平成 23 年度にむけての提言

精神障害長期入院者や重度知的障害者地域生活の環境を整えるため、上記 ~ の課題を共有し、対策について検討していく。